
双空の誓い

双空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双空の誓い

【Nコード】

N6478A

【作者名】

双空

【あらすじ】

何も考えず、ただ1日1日を過ごすだけの世界その世界に起きた出来事の話

第1章

彼は覚えているだろうか

私と語ったあの時を

彼は今も考えているだろうか

私が尋ねた質問を

そして・・・彼は・・・

守ってくれるのだろうか

私と交わした約束を・・・。

少年は走っていた。

静かな森の中を、光のささないくらい闇の中を走っていた。

息をきらしながらも、とまることなく、体に負う重荷にもかまわずに。

急な坂も、細く険しい細道までもとまらずに。

徐々に体を、体力を蝕む怪我という重荷を背負いながらずっと走っている。

少しでも離れるために、少しでも生きているという実感を得るために……。

だから彼は止まろうとしない。止まらないのだ。

少年に迫り来るものがある限り、少年は止まらず走り続けるだろ。

自分のために、彼は走った、走りに走った。

しかし気づいてみれば、彼の右腕は肩から赤い血を流しながら、無くなっていた。

彼の息はさらに荒くなる。

それでも走った。

徐々に失う”体”^{いのち}を守るために……。

次第に彼の腕は左手までも同じようになくなっていくのだった。

腕だけではない……。

耳も足もなくなっている。

彼の意識だけが、体を置いて走っていく。

森の向こうへ、この場所から、早々と……。

そして……、彼の意識はなくなっていた……。

その、彼がいた場所のそばには、赤い”丸い点”のついた大木が横たわっている。

その横に、少年のものと思われる、血のついた衣類があるだけだった・・・。

第1章

第1章

彼は覚えているだろうか

私と語ったあの時を

彼は今も考えているだろうか

私が尋ねた質問を

そして・・・彼は・・・

守ってくれるのだろうか

私と交わした約束を・・・。

少年は走っていた。

静かな森の中を、光のささないくらい闇の中を走っていた。

息をきらしながらも、とまることなく、体に負う重荷にもかまわずに。

急な坂も、細く険しい細道までもとまらずに。

徐々に体を、体力を蝕む怪我という重荷を背負いながらずっと走っている。

少しでも離れるために、少しでも生きているという実感を得るために……。

だから彼は止まろうとしない。止まれないのだ。

少年に迫り来るものがある限り、少年は止まらず走り続けるだろ。

自分のために、彼は走った、走りに走った。

しかし気づいてみれば、彼の右腕は肩から赤い血を流しながら、無くなっていた。

彼の息はさらに荒くなる。

それでも走った。

徐々に失う”体”^{いのち}を守るために……。

次第に彼の腕は左手までも同じようになくなっていった。

腕だけではない……。

耳も足もなくなっている。

彼の意識だけが、体を置いて走っていく。

森の向こうへ、この場所から、早々と……。

そして・・・、彼の意識はなくなっているのだった・・・。

その、彼がいた場所のそばには、赤い”丸い点”のついた大木が横たわっている。

その横に、少年のものとされる、血のついた衣類があるだけだった・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6478a/>

双空の誓い

2010年12月14日03時00分発行